

社説

<2016.3.18>

議決の重み受け止めよ

新野球場予算修正

静岡県議会は2月定例会最終本会議で、2016年度予算案から浜松市西区の新野球場整備をめぐる事業費を減額する修正案を可決した。川勝平太知事は10日以内であれば県議会に再議を求めることができ、出席議員の7割が修正案に賛成した議決の重みを真摯に受け止めるべきだ。

減額案が可決されたのは、西区の遠州灘海浜公園篠原地区に防災機能を備えた新野球場を整備するための事業費。川勝知事が16年度当初予算に基本計画策定費を盛り込み、東京五輪・パラリンピックが開かれる20年までに完成できるように意欲を示してきた。これに対し、県議会最大会派の自民改革会と市と県の調整不足、東京五輪前の建設

費高騰を理由に修正案を提出していた。最終本会議の議決は、民主系のふじのくに県民クラブが反対したが、公明など自民以外の会派も賛成した。

陸上競技場と併設されている浜松市営の四ツ池公園浜松球場は30年以上、大規模改修を行っておらず、老朽化が著しい。収容人数2万人に対する駐車場不足も課題だ。県内は静岡草薙、沼津愛鷹と中東部に県営球場が配されている。県議会審議では、自民会派からも県西部への県営野球場整備については、異論が出なかった。

20年東京五輪までの防災機能付き新球場建設は、工費高騰を考えなければ「ユニークな施設」としてアピールできるのかもしれない。ただ、全体で250億円まで膨らむ可能性がある大型事業の議論が拙速でいいはずがない。

篠原地区は風が強く野球には不向き

との関係者の見方に、知事は「野球場がどこにあるとか、風がどうかとか、そういう話ではない」と語り、「(建設は)人助けのためだ」と訴えている。

津波が防潮堤を越えた場合、周辺住民や来訪者の「命を守る」ならば命山なども考えられる。さらにそのような土地に2万2千人もが収容できる集客施設を建てることへの矛盾はないか。

一方で、浜松市の鈴木康友市長は野球場が篠原地区に完成した後の四ツ池公園について、野球場は撤去し、陸上競技場を国際大会が開催可能なよう再整備する構想を示している。そこまで大規模な構想であるのなら、競技団体や市民の理解はより重要になる。

新球場をめぐるのは、浜松市議会も用地取得に向けた調査費を減額し、準備費に付け替える修正案を可決する見通し。県議会本会議で当初予算案の修正案可決は初。浜松市議会では1995年以來となる。それだけ重みのある議決と言える。